

このスポット・おすすめ!

「幻」のあの店がついに実店舗をオープン!
ほろよい食堂 **がじろう飯店**



地元の身近な食材に「工夫」
アジアを感じる新鮮な味
読谷村都屋の県道6号沿いに今年2月にオープンした、お酒もちよっぴり飲める食堂です。店名を聞いて「あれ、どこか見たことあるぞ?」と思っただ方もいるかもしれませんが、出張レストラン企画「幻食堂」や、座喜味城通りふれあい祭りなど数々のイベントに出店し、毎回人気を集めていたあの店が、ついに実店舗を構えました。ナンブラーとレモンで味付けしたタイ風の「にんじんシリシリー」お米の代わりに読谷村の親志豆腐を使った「ヘルシーおから巻き寿司」など、評判のあの味この味が、これからはいつでも味わえます。「身近な食材にひと工夫加えるだけでこんなにも味の幅が広がる、おいしく食べられるレシピ」を、ぜひ知って楽しんでほしいです。話すのはオーナーの三村さんと、妻。「アジアの調味料やスパイス、ハーブをふんだんに使っています。味わい、見た目、アジアや遠くの国を旅している気分になれるような、日常的でありながら非日常を感じる料理を目指しています。」料理は奥さまのゆりこさんが担当し、「主人の頼みは、お酒とゆめんとく当番」。お2人のときはごくしたく「コンパニオンがつくり出す、アパートホームな雰囲気も魅力的です。」定番のメニューをアフレカトルでそろえるほか、旬の食材を使った期間限定の一品や、レギュラー入りをめぐる新作料理は、日替わりの黒板メニューで紹介。独自に取寄せた日本酒などお酒を飲みながら楽しむのもよし、お食事だけでも気軽にご利用いただけるお店です。

住所 / 読谷村都屋 261-4-101
電話 / 098-988-7272
時間 / 18:00~23:00
休み / 日曜日
駐車 / 5台程度
http://gajirouhanten.ti-da.net/
(おもなメニュー)
* タイ風手羽先(ガイヤーン).....620円
* にんじんシリシリー.....380円
* ヘルシーおから巻き寿司.....380円
* 青パパイアのタイ風サラダ.....480円
* 沖縄(うちなへ)塩焼きそば.....620円
* 白い麻婆豆腐丼.....640円
※ 価格はすべて税別



読者プレゼント

このスポット・おすすめコーナーで紹介の『ほろよい食堂がじろう飯店』で使える

2,000円分 お食事券
3組様

Q なぞなぞ
動物がいます。
なんという動物?

- 3月号当選者 前号の答え(ホットケーキ)
- ★比嘉 由美子さん(宜野湾市在住)
 - ★長濱 祐子さん(恩納村在住)
 - ★比嘉 あけみさん(読谷村在住)

ワイワイ広場

読者プレゼント応募方法

宛先 読谷村字伊良皆237-1 ワインズ『広報誌係』

①住所 ②氏名
③年齢 ④職業
⑤電話番号

裏 ⑦ご意見
⑧ご感想

応募者の中から抽選で、読者プレゼントを進呈致します。どしどしご応募下さい!

締め切り **2017年4月20日消印有効**
「当選者は次号(Vol.152)にて発表致します」

『Freshウインズ』は、建築でお手伝いをさせて頂いた施主様をはじめ、地域にお住まいの方など、ご縁をいただいた皆様に配布しております。諸事情により配布不要となった際は大変お手数ですが、その旨ご連絡下さい。(ウインズ広報誌係)

Fresh ウインズ

人と人とのつながりを大切に...池原建設が大切なお客様にお送りする手作り広報誌

Fresh Winズ
2017年
4月号
Vol.151
TOKYO 2020



今月の歳時記

- 4月2日(日) **第17回 あやし海中ロードレース大会**
会場・開催地/東村村民の森つじ園
- 4月8日(土) **第14回 琉球海炎祭2017**
会場・開催地/宜野湾市・ぎのわん海浜公園トロピカルビーチ
- 4月20日(木)~23日(日) **島ぜんぶでおきな祭 第9回 沖縄国際映画祭**
会場・開催地/那覇市、宜野湾市ほか県内各所
- 4月29日(土) **第7回 にーちび映画祭・本選**
会場・開催地/読谷村・沖縄残波岬ロイヤルホテル

新年度・新学期。県内各地のビーチからは続々と海開きの便りが届き、月末にはゴールデンウィークに突入します。皆さんは何連休になるのでしょうか?
読谷村のざんぱビーチの海開きは4月1日。毎年恒例のにーびち映画祭は、クライマックスの本選が29日に行われます。



0120-229-512 ウインズ 池原建設 検索

(株)池原建設 企画事業部ウインズ
〒904-0303 沖縄県読谷村字伊良皆 237-1
営業時間 / 9:00~18:00 (年末年始を除く)

住宅のメンテナンスや
補修等のご相談は、お気軽に
スタッフへお声掛け下さい!



ストリートストーリー

Street Story!

若手作家の育ての親から、アート全般を手がけるキュレーターに人と作品の出会いを広げるために、「沖縄アートグループ」の次に見据えるもの



■今年2月末までポートヒロックギャラリーで開かれていた、極彩色画家せきぐち彩さんの個展「YourHAPPY myHAPPY 展」会場にて

県内の若手・新鋭アーティストを集めた「沖縄アートグループ」を主宰し、多くの才能を世に送り出してきた砂川洋子さん。昨年からには体制を刷新し、沖縄におけるアートのさらなる可能性を求めて、フリーランスのキュレーター（展覧会やアートイベントを企画する人。アートディレクターのような存在として活動を開始。昨年末には独立後初の企画展を開催するなど、新たな展開を見せ始めています。



砂川洋子さん

■若手・新鋭の作家を育てる 沖縄アートグループを設立
浦添市出身で、東京でIT企業を経営していた砂川さんが、沖縄の若手・新鋭アーティストの育成・支援を行う「沖



■オープン当初の「沖縄アートギャラリー」 ■砂川さんがほれ込んだガラスアクセサリー「ひろつつたビノキセキ」(左)をはじめ、個性的なアート作品を数多く輩出 (2010年頃撮影)

レームワークの考え方は同じでした。

もう一つ意識したのが、ガラスアクセサリー作家一人を売り出すのではなく、複数のジャンルの複数のアーティストを集めて「パッケージ化」すること。「名のある大家ならともかく、まず存在自体を知ってもらうためには、多くの人に見てもらわなければならない。グループとして打ち出すことでその確率が増し、一人一人の個性も際立つと考えました。」

こうして集まった初代メンバーは5名。砂川さんにとっても、各アーティストにとっても、新たな挑戦が始まりました。



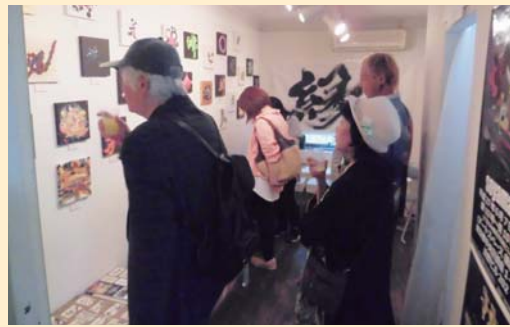
■2013年・14年に開催した「備瀬の野外アート展」には各年4、5名のアーティストが参加

“親離れ”したメンバーが 県内外で続々と活躍

沖縄アートグループ結成の翌年には、チャンプルー荘1

階ロビーの半分スペースを使用し、所属作家の作品を常設展示する「沖縄アートギャラリー」をオープンしました。さらに人と作品、人と作家をつなぐ場を広げるために、サンエー那覇メインプレイスでの「沖縄新鋭作家展をはじめ、ダイワロイネット那覇国際通りでの作品展、備瀬フクギ並木を利用した野外アート展など、県内各所で展覧会・販売会を続々と実施。13年からは沖縄を飛び出し、福島県いわき市にある金澤翔子美術館を訪れ、震災復興の願いを込めた企画展も開催しました。

沖縄アート「グループ」といっても、各作家が常に一緒に動いていたわけではありませんが、あくまで個々の創作活動をベースにしたゆるいつながりのネットワークで、砂川さんの支援を受けビジネスが軌道に乗り、晴れて一人立ちする者もいれば、チャンスを探り、新たに参加する者もあり、メンバーは最大で15名まで膨らみました。



■FMよみだんのパーソナリティーでもおなじみ、縁筆書家 soyamax の個展を、2015年に東京の「アートスペース銀座ワン」で開催

元を離れるわが子を見ているようで、うれしいやら寂しいやら。もちろん今でも連絡を取り合っています。向こうから話が来るときは、大抵困ったことや相談がある場合です(笑)。

そんな「親心」の厚い砂川さんだからこそ、メンバーが増えるにつれて「受け入れた以上、なんとか自立させなければ」と責任感・義務感ばかりが強くなり、またチャンプルー荘では「本来なら旅行者同士が楽しく歓談する場所なのに、ギャラリーに来客中は、少し静かにしてほしい」と願わなければならぬ。心が苦しくなってきた。このままでは「アートそのものを純粋に楽しめなくなってしまう」と感じた砂川さんは、昨年4月にギャラリーを閉めることを決断。沖縄ア

トグループの活動も一度リセットして、今後の方向性を見直すことにしました。

■世界中のアーティストが 憧れる環境を沖縄に

「リセット」とはいえ、もともととゆるいつながりの活動だったため、所属作家にとってはチャンプルー荘のギャラリーがなくなっただけで、砂川さんとの関係は変わらず継続しています。むしろ大きく変わったのは、砂川さん自身の立ち位置です。これまでの「若手・新鋭アーティストの育ての親」という枠を外れて、プロ・アマ問わずアート全般に関わるキュレーターの道を歩むことになりました。

「当面の目標は、人と作品・作家が出合う機会を今まで以上に提供できるような、魅力的な常設ギャラリーを5年以内に関すること。みんなが夢に向かって創作に励んでいるように、一日でも早い実現を目指して、私も頑張らないといけません。」



■アートの世界を通じて、県内全域に、そして世界中に、たくさんの人の輪が広がりました

「きっかけは、一人のガラスアクセサリー作家との出会いでした。私自身が彼女の作品の大ファンになったことに加え、素材はガラスでも、ダイヤモンドの指輪と同等以上の価値があると信じて作っている。たくさんの人に知ってもらいたい」と熱く語る彼女の姿に、どうにかして発表・販売の場を広げてあげたいと突き動かされたんです。

もともと「美術館や展覧会を巡るのが趣味の一つ」だったとはいえ、アーティストのプロデュースは未知の世界。それでもそこはかとなく自信を感じていたのは、「業種は違えど、ITでの経験・実績が生かせると思ったから」。砂川さんが得意としてきたのは、クライアントと開発チームの間に立ち、多くのユーザーが利用しやすいWebサービスを開発・制作・運用すること。アーティストをプログラマー、作品の観覧者・購入者をWebユーザーととらえれば、アートもITも全体のフ

最近ではプロの作家との接点も増え、砂川さんの活動範囲も、将来の展望も徐々に広がってきました。5年以内にギャラリーを開いた先には、「県外・海外に住むアーティストが、海を隔てても、沖縄で展覧会を開きたい」と思ってくれる場所をつくれたら。ほんの数秒の沈黙の後、「どうしよう、大きなことを言い過ぎちゃったかしら」と照れ笑いを浮かべたキュートな表情の中にも、確かな自信が見え隠れしています。